

第3回別府市協働のまちづくり推進委員会 議事録

日 時：平成30年10月15日（月）15時00分～

場 所：市役所4階 4F-3会議室

出席者：【協働のまちづくり推進委員会委員】

中村委員、福谷委員、近藤委員、玉田委員、大塚委員、西委員、原田委員、
平石委員、荒金委員

【事務局（自治振興課）】

山内課長、井上主査、河野主査

欠席者：【協働のまちづくり推進委員会委員】

中山委員

委員会内容

●議事概略

(1) 議題1『平成29年度協働のまちづくりの推進に関する施策の実施状況評価結果(案)』
について事務局より説明

- ・第2回委員会において、協働のまちづくり推進条例の規定に基づき事務局が報告した平成29年度の協働のまちづくりの推進に関する施策の実施状況について、各委員からいただいた意見をもとに作成した評価案を読み上げ、記載内容等について修正が必要な箇所などについて意見を伺った。
- ・今回の意見を反映させ、評価結果の最終案を作成し、後日、各委員へ確認を依頼。全員の確認の終了をもって評価結果を確定させる。

(委員長) ただ今の説明について、ご質問やご意見等がありましたら、発言をお願いします。項目ごとにご意見をお聞かせください。まずは項目1「新採用職員への研修」について、発言をお願いします。

(委員) 前回委員会で実績報告を受けた際には、協働のまちづくり推進条例にある5つの基本施策に沿って報告をしていただいたので、今回の評価結果についても5つの基本施策に沿って記載する方が条例に基づいた形になるので、良いのではないかと思います。

(委員長) 事務局はそのような形で修正するというのでよろしいでしょうか。

(事務局) 承知しました。修正後、また皆さまにご確認いただきたいと思います。

(委員長) 新採用職員よりも経験を積んだ職員の方が仕事をする上で協働に取り組む機会が多くなります。企業の場合は年度当初に組織の目標が設定されるので、それを達成するためにどの団体と連携するかということを考えますが、協働の仕組みを活用するためには、市が行う管理職研修を実施する際にも協働研修を入れておくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

(副委員長) 現在の研修体系からすると、先ほど目標管理の話がありましたが、基本は市の方針に則って、部の目標管理があり、課の目標管理があり、個人の目標管理

を設定するという流れになっていて、それぞれの階層に応じて必要な能力を習得するための研修を行っています。実際に管理職対象の協働研修を行う際は自治振興課だけではなく、人事担当課である職員課も関わってきますので、双方でどのような方針で進めていくかという協議が必要になります。

(委員長) 職員は異動がありますので、その際にどのような団体とどのように協働するかを考えることが求められるのは、管理職だと思いますので、管理職研修の一環として協働研修を実施する方が効果的ではないでしょうか。

(副委員長) まちづくり団体やNPO法人がどのような活動をしているかという情報がありなため、実際に事業を進めるうえでNPO法人を活用する例が少ないという課題があります。こうした状況を打開するためにも、市が取り組む「ひとまもり・まちまもり自治区形成事業」を通じて、自治会を中心に地域にある多様な主体や団体等が連携・協力し、地域課題の解決に多面的に取り組む「ひとまもり・まちまもり協議会」の設立を推進し、地域にある多様な団体との接点をつくるというねらいもあります。

(委員長) 続いて、項目2「市長とみらいを語ろう～ひとまもり・まちまもり懇談会～」について、発言をお願いします。

(委員) 項目3「ひとまもり・まちまもり自治区形成事業」にも共通することですが、『ひとまもり・まちまもり』について、市民の認知度が低いと思います。一部の人たちだけにしか広がっていないので、懇談会も自治区形成事業も地域住民にもっとその意義をPRしていくべきです。何のために実施しているのか、近い将来を見据えた行政の指針を示し、地域住民の意欲を向上させるための方法を検討していただきたい。

(委員長) 評価結果としては、協働の様々な場面において、もう少し市民が参画できるように市として働きかけて欲しいということでしょうか。

(委員) そうですね。ひとまもり・まちまもり自治区形成事業は、これまでにない画期的な取り組みだと思いますので、もっと推進していくための手段がどうあるべきかということを考えていただきたい。

(委員長) 次の展望を開くためには、その部分を強化しなければいけないですね。

(委員) 地域がやろうという意識を起こすための策を講じていただきたいと思います。

(委員長) ただ今の意見について、事務局の考えはいかがでしょうか。

(事務局) 現在、事業2年目にして自治区協議会が設立された地区もありますので、その活動を市民に示し、知ってもらうことで少しずつ広がっていくのではないかと思います。ただ、市でも積極的に認知されるように研修の実施や市民が参画する機会を作らなければいけないと思います。

(委員) 市報を活用することも必要かと思います。

(委員) 別府市はフェイスブックがあるので、「ひとまもり・まちまもり自治区形成事業」の取組みを投稿すれば、若い世代の人たちの目に触れる機会も増えて、広

がりが出るのではないかと思います。

(委員 長) ウェブ上で情報を発信できると良いですね。それは難しいですか。

(事務 局) 他市の事例を見ると、協議会ごとにホームページを作成しているところも
ありますが、別府市はまだその段階まで至っていない状況です。

(委員 長) 若い世代にアピールするためには、SNSを活用するのは有効ですので、
市の方でも検討していただきたい。

(事務 局) 現在、市のホームページで掲載している情報は充実しているとは言えない
ので、見直したいのですが、職員に頼らざるを得ないため、なかなか更新できて
いないというのが課題です。

(委員 長) 協議会が利用できるように、市が先行してホームページのモデルを作成で
きると有難いですね。

(事務 局) 現在はまだ協議会の設立を進めている段階ですので、計画的に取組みを進
めていきたいと思います。

(委員 長) 意見をまとめますと、市民の参加意識を高めるためにはSNSを活用して
広く周知するということがよろしいでしょうか。

(委 員) 「ひとまもり・まちまもり」という言葉を住民がどのくらい意識している
のだろうかと思います。市報であれば毎月見るので、その中で毎月1コーナーを
確保して、お知らせができると、特に高齢者の目に留まると思います。将来を見
据え、地域を維持していくためにはここが大事なんだということを周知し、市民
に当事者意識を持ってもらうことが重要だと思います。

(委 員) 市報もSNSも両方活用して幅広い世代の人に知ってもらえると良いです
ね。

(委員 長) 多様な手段を使って具体的な成功事例を発信していくことで、市民の意識
もより良い方向へ向かっていくと思います。

項目3について、他に意見はありませんか。最後の一文に「協議会」とありま
すが、これだけでは分かりにくいので、「〇〇協議会」と記載してはいかがでしょうか。
うか。

(委 員) 「自治区内の多様な主体」というのは、子ども会とか老人会とか複数ある
団体が情報を共有できるような協議会を設立するという意味でよろしいですか。

(事務 局) 自治区内に限らず、NPO法人など、事業に関係する団体についても地域
とつながりがあれば、協議会を構成する「多様な主体」に含まれます。

(委 員) 「多様な組織・団体で構成されるひとまもり・まちまもり協議会」と記載
する方が分かりやすいと思います。

(委員 長) 項目4「その他」について、ご意見等ありませんか。

(委 員) 「行政の人員が削減される中で」という表現は、協働のまちづくりを推進
する理由にはならないので、訂正した方が良いと思います。

(委員 長) ここは事務局の方で文章を見直していただけますか。

(事務 局) 承知しました。

- (委員長) 「中間支援組織」という言葉も専門用語になるとと思いますが、硬い表現なので、イメージするのが難しい点があります。
- (事務局) 事務局としても中間支援組織を考えていく中で、他市の事例を見ると色々なパターンがあり、別府市としてはどのような形が分かりやすいのか、諮問という形も含め、この委員会で委員の皆さんに相談したいと思っています。中間支援人材については、協働のまちづくり推進条例にも規定されていますが、制定当時と状況も変化しており、今後事業をすすめるうえで取り組んでいかなければいけない課題だと考えています。
- (委員) 最後の2行にある「中間支援組織の育成」や「協働の活動拠点の整備」というのは、協働指針にも記載がありますが、この点について、前回の委員会でどのような考えですかと質問させていただいた時にそこまで緊急を要する課題ではないという回答だったと記憶していますので、この一文は無理に記載しなくてもよいのではと思いました。
- (事務局) 確かにこの2点は協働のまちづくり推進条例や協働指針にも記載があるので、そこを盛り込まなければならないという意識があるのだと思います。
- (委員長) 「また、…」から以下を外して、NPOの育成支援という点に絞り込むということよろしいでしょうか。
- (委員) 無理に記載しなくてもよいのではないかとことです。将来的な課題ではあるので、今後の展望を示すことは必要だと思います。
- (委員) 行政と市民との中間支援人材、コーディネーターは必要になってくると思いますので、ここは残しておく方がよいと思います。
- (事務局) 「今後は…」というような形に修正します。
- (委員長) 全体を含めて何かご意見はないでしょうか。
- (委員) 敢えてそうしているのかもしれませんが、全体的に表現が抽象的すぎるかなと感じました。我々民間企業が事業を行う際はPDCAサイクルに基づいて事業を構築していきますが、例えば市長との懇談会の件でいうと、若い人が参加できるように仕掛けたい時に、現状の参加者の構成比率がどういう状況で最終的には構成比率をどれくらいにしたいという情報があったうえでの報告であれば分かりやすいのですが、目標がどこに置かれているのか分かり辛いので、PDCAサイクルに従って検証結果を示す方が理解しやすいと思います。
- (委員長) 具体的な根拠を入れることができますか。
- (委員) 今回の評価に際してではなくてもよいのですが、委員会の資料の中で示してもらおう方が分かりやすいと思います。
- (委員長) 表現された言葉についての根拠となるデータは必要だと思います。
- (委員) あった方が話し合いも効果的だと思います。
- (委員長) 評価結果のとりまとめの文章の量の問題もあるかもしれませんが、今、ご指摘があった根拠の部分も含めた評価結果の文章を作成するということよろしいですか。

(委員) 今回の評価結果についてはよいのですが、委員会名で評価結果を提出するのであれば、来年度にまた今年度の事業を評価する際、市長に提出する文書に根拠まで盛り込む必要はありませんが、それを議論する委員会の資料の中では根拠の部分があった方が、話し合いの中で理解できると思います。

(委員長) ただ今のご指摘について、事務局はどのように考えますか。

(事務局) 本来は推進計画やPDCAサイクルを回すための検討を経たうえで実施しなければならぬと思いますが、現状では、昨年度、事業の実践と並行しながら検証を行っているような状況だったので、ようやく形になってきて、今後の方向性や行程表について考えなければいけないと置いていたところでした。他市では根拠の準備に時間を要して実践に移れないという状況もある中で、別府市の場合は昨年度、事業を進めることに重点を置いていたので、結果が早く出たというメリットもあり、現実味のあるまちづくりができていないかと思っています。委員からご指摘のあった点につきましても今後取り組んでいかなければいけないと考えていますが、全体の計画や指針の見直しなど、委員会のお力もお借りしたいと思っています。

(委員) 私も行動を起こすことが一番大事だと思いますが、全てが充実した根拠でなくても構わないので、現在目指している方向性であるとか、今回の検証結果がどうだったといった現状を把握したものを示していただけると有難いです。委員会もまだ2期目ですので、目標が必ずしも正しいとは限らないですし、実施してそこに差異が生じれば、そこを定め直せばよいと思います。

(委員長) 実施を通じて方針とそのギャップを見える形にするということによって全体を認識してもらうことは大事だと思います。

(委員) 前回委員会の資料を見させていただいて、地域応援隊の結成など、市の取り組みについて、知らなかった部分を知ることができたり、ある程度の方向性は理解できたところもありますが、例えばひとまもり・まちまもりについて、私が所属する組織でメンバーに知らせることができているのかと言われたら、伝えられていないので、相手も分からないですし、地域応援隊についても具体的にどのような取り組みをしているのかを自分自身が知らないで、伝えられないというのが現状です。制度を固めることも必要だとは思いますが、実際にやってみないと結果が付いて来ない部分もありますので、全員の意見が共通する部分から取り組んでいくことで色々な方面に波及していくのではないかと思います。

(委員) 市の取り組み全般でみると、年々協働の事業が見えやすくなってきたと感じています。方針は変えずに実践しながら、市民が分かりやすいように整理して形を作っていけたら良いと思います。

(委員長) 議題1についてのご意見、質問は以上でよろしいでしょうか。他になければ、次の議題に移ります。

(2) 議題2 『経過報告』について事務局より説明

◆ 『ひとまもり・まちまもり自治区形成事業』

- ・前回の委員会では集計中のため報告できなかった29年度実施事業の詳細について、報告。
- ・29年度は事業の初年度ということもあり、年度の前半は地域への説明等に時間を要したため、事業実施期間が限られた状況だったが、市内全ての自治区において、課題の解決に向けて話し合い、連携して事業を実施できたことは大きな成果。
- ・今年度から市では自治会に加え、地域にある多様な主体や団体等が連携・協力し、地域課題の解決に多面的に取り組む『ひとまもり・まちまもり協議会』の設立を推進しており、山の手自治区では6月に協議会が設立され、8月には野口、青山、西の3地区が連携して音頭大会を開催、多くの住民が参加し、効果が出ている。
- ・現在、他の自治区でも山の手協議会を参考に、協議会の設立に向けた準備や協議が進められており、市でもその取組みを支援している。

◆『地域応援隊』

- ・前回の委員会で応援隊設立を報告して以降、各地区から行事の準備や参加、祭りの会場設営等、様々な派遣依頼があり、10月現在、予定も含め、延べ121名の派遣となっている。
- ・派遣先の自治会からは「助かった」と感謝の言葉をいただき、また派遣した職員からも「地域とのつながりを感じるよい機会となった」など参加の意義を感じる報告を受けている。
- ・現在、応援隊員は169名だが、今後も若い世代の職員を中心に隊員の登録を呼び掛ける。

◆『ひとまもり・まちまもり懇談会』

- ・今年度は高齢者を対象に市の重点的な取組みである健康寿命の延伸について、市長が直接話をしている。
- ・市内に約100ある単位老人クラブを主体に開催しており、老人クラブ連合会と連携しながら今後も開催していく。

◆『採用2年目職員への協働に関する意識調査結果』

- ・平成29年度新採用職員研修を受講した職員を対象に本年5月にフィードバック調査を実施。
- ・研修内容を振り返ることにより、協働に関する認識を深め、職責に活かすことが調査の目的であり、これからの人口減少、少子高齢化社会という観点からも職員の協働に対する認識を高め、協働の視点をもって業務に就いてもらうためにも今後も調査を継続していく。

(委員長) ただ今の説明について、ご意見、ご質問等ありますか。

(委員) 今年度の「ひとまもり・まちまもり懇談会」は高齢者の健康寿命延伸をテーマに4月から開催していますが、当初、各地区の老人クラブとの日程調整は大変だろうと思っていましたが、連絡調整の役割を市が引き受けていただき、また、高齢者と意見交換したいという市側の熱意が老人クラブに伝わったようで、毎回参加率は高いと実感しています。市長をはじめ、健康寿命延伸に対する職員の取組みの真剣さが参加者にも伝わっていました。また、研修会などは高齢者にも理解できる

内容で開催していただきたいと以前に意見をすることがありましたが、限られた時間の中、参加者が日頃感じている市に対する疑問点や意見なども直接聞くことができたので、充分に実践していただいていると思います。開催にあたって、参加者や校区の会長の感想もとても良いです。

(事務局) 今回は資料を用意できませんでしたが、市長のフェイスブックには懇談会の様子を載せていますので、見ていただけたらと思います。とても良い雰囲気でもさに協働という形で開催できていると思います。

(委員長) 素晴らしい取組みの経過や結果がもっと皆さんに伝わると広がりが出てくるとと思います。他にご意見はありませんか。

(委員) 「地域応援隊」についてですが、5月に結成して約20件、延べ121名の派遣実績があるとのことですが、重複している人を除くと実質何名ぐらいの派遣人数になりますか。

(事務局) 意外と重複している人は少ないです。派遣依頼が多かった浜脇薬師祭りについても隊員間で日程を調整していますので、重複しているのは数名程度だと思います。

(委員) そこが大事だと思います。特定の職員に偏りすぎることがないように配慮が必要です。

(委員) 「ひとまもり・まちまもり自治区形成事業」について、山の手自治区が協議会を設立したとのことでしたが、他の地域ではどのぐらい協議会が設立されていますか。

(事務局) 中部地区では話し合いが進められていて、協議会を設立することが決定しています。現在、設立に向けて構成団体を調整している段階です。その他、複数の地域で協議会を設立しようという話は何っています。

(委員) 市の方針としては、協議会組織を設立してくださいというお願いではなく、あくまで地域の自主性に任せるという考えでよいですか。

(事務局) はい、そのとおりです。

(委員) 自主性に任せると、補助金の活用方法などの相談もあるので、各地区の支部長と市とのやりとりが中心になるとと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) 市が協議会の設立を推進するという事で説明をさせていただいていますが、自治会長が主体的に動いている地区と会長以外に事務的なことをする人がいる地区があり、地域によって状況が異なりますので、これから協議会を組織していく中でそれぞれの役割分担や人材育成について支援ができたと思います。また、一堂に会して協議をする場を協議会で設けることができるとよいのかなと思います。どうしても地域の実情を把握できるのが、いつも窓口に来られる代表者の方からの情報が中心になっている現状がありますが、色々な方の意見を反映できるというのが協議会設立の趣旨ですので、地域の中で組織を整えていただけたらと思います。

(委員) ひとまもり・まちまもり協議会を設立する意義を地域がどのくらい理解できているかによると思います。先ほども申しましたが、「ひとまもり・まちまもり自治区形成事業」は画期的な事業ですので、自治振興課も苦労すると思いますが、強

方に推し進めるべきだと思います。

(事務局) 地域の取組みを支援することはできますが、中に入って指示することはできませんので、難しい面もあります。

(委員) 最終的には若い人が自治区協議会の会長に就いて、率先して進めていただかないとこれまでの硬直した考え方では前に進まないと思います。

(委員長) 地域には色々なしがらみがあって、まとまらないこともあるので、そこに市議会議員が間に入るとさらに良いと思います。これまでの行政や自治会の考え方は協議会を設立するうえで障害になることもあるので、協議会は中規模な共助組織であること、自治会の枠を越えて取り組まないと事業の存続ができなくなるということ市議会議員が間に入って住民に説明し、意識を変えていただきたいです。協議会が地域の中で生活支援センターのようになることが趣旨だと思います。

(委員) 私もこの委員会に所属して活動していく中で、徐々に協働のまちづくりについて理解できているような状況がありますが、多くの議員は協働のまちづくり推進条例の制定に携わった経緯はあるものの、市の取組みに対する理解度には個人差があり、地域の中で一律の対応をするのは難しい面もありますので、むしろ議員に対し、定期的に研修をしていただくと有難いと思います。

(委員長) 地域のしがらみは、自治会同士であっても解決できない、市職員が地域に入っても反発されてしまうので、実践して改善していく際にリーダーシップを発揮していただくのは市議会議員が一番相応しいと思います。山の手自治区は一つのモデルになるので、他の地区の参考になると良いです。

(事務局) 説明をするよりも実際に見せることが一番だと思います。世代間でもギャップがあり、全員が共通理解することは難しいので、成功事例を示すことが大事だと思います。

(副委員長) 行政主導で進めてもうまくいかない事業だと思います。地域には温度差がありますので、モデルとなる地区で取り組んでいることを発信しながら進めていくことで徐々に他の地区にも広がっていくのではないかと思います。

(委員) 先日、大分駅に行った時に南口でイベントが行われていて、県内全市町村がテントを出して物品販売をしていたのですが、他市のテントは賑わっていたにもかかわらず、別府市のテントだけお客が全くいなかったのでも、売っている商品を見たら大して買うようなものがなかったことに驚いた。派遣する職員の人件費の問題などもあるかもしれないが、別府市を宣伝する場があるなら、それ以上の宣伝効果が得られるはずなので、その辺ももう少し力を入れた方がよいのではと思いました。

(委員長) 外から来た人から見たら、別府市は恵まれているので、自分たちで売り込まなくても顧客が来るという感覚があります。言い換えると新規投資という意志が少ない側面があります。

(委員) 毎日、別府公園でゴミを拾いながら散歩をしているのですが、観光客に声をかけた時に美術館が移転したことを知らなかったといったことがあったので、まだまだ情報発信ができていないのだなと感じました。別府の魅力に気づいていない人が多いので、私たちがもっと宣伝しないといけないのかなと思いました。

- (委員長) 他にご意見はありませんか。
- (委員) 「ひとまもり・まちまもり自治区形成事業補助金」の実績の資料で29年度は700万円の予算に対して約630万円の実績額ということですが、30年度は約半年が経過した現在、どのような状況でしょうか。
- (事務局) 昨年度に比べるとどの地区も理解が進んでおり、ほとんどの地区ですでに事業に着手している状況です。
- (委員) 29年度の事業は1年で完結して、30年度には、また新しい事業が実施されるという認識でよろしいですか。
- (事務局) 昨年度は事業期間も短く、理解度もまだ浅かったため、事業的なものではなく、備品の整備に留まる地区が多かったのですが、今年度は事業の実施や協議会が設立される地区もあり、事務局としては昨年度と比べてかなり理解が進んでいると感じています。
- (委員) この補助金の意義は地域の困りごとを住民同士で解決するためにあるのだと思いますが、各自治区でこの補助金の趣旨に沿わない使途があった場合、市としてはどのような対応になりますか。
- (事務局) 各地区とも事前に事業内容について協議を行っていますので、基本的には趣旨に沿わない使途についてはその段階で調整しています。また申請の段階で計画書を審査しますので、趣旨に沿わない使途については補助金交付の対象外となります。
- (委員長) 続いて議題3「その他」について事務局から何かありますか。
- (事務局) 議題1について、本日いただいたご意見をもとに評価結果の最終案を作成しますので、できましたら確認をお願いしたいと思います。
- (委員長) 他にご意見はありませんか。
- (委員) 「地域応援隊」について、私の地区では12月に餅つきを行うのですが、地域応援隊の派遣を依頼しようという話が出ましたが、作った餅を販売するため、営利目的のために応援隊は利用できないということで、派遣依頼はしないこととなりました。何でも地域応援隊に頼むという発想ではなく、内容で判断して依頼をしていることをご承知おきください。
- (事務局) 職員も住民として、ボランティアでの参加ということもありますが、そのように依頼する前に地域で調整していただけると有難いです。
- (委員長) 他にご意見はありませんか。
- (委員) 老人クラブの組織の中で嬉しい動きがありましたので、ご報告させていただきます。老人クラブの役員の働きかけも良かったと思うのですが、ある町内で市役所を今年退職した方が老人クラブの会員になって、「若手高齢者」として、まさに地元の応援隊として協力していただいているという報告を受けました。普通は市職員は退職後に声を掛けても入ってくれない、来てくれないという声ばかり聞いていましたので、このような兆しが出てきているのだとしたら嬉しいなと思います。長い目で見た時に応援隊の人が増えていけば、地元に着定していくと思いますし、年

を重ねていく中で地域住民として動いてもらえるようになると思いますので、この
応援隊の取組みは素晴らしいと思います。

(事務局) 応援隊については、新聞に記事が掲載された際に他の自治体からも参考に
したいとの問合せがありました。別府市もまだ取組みを始めたばかりですが、継続
していかなければ意味がないので、そのためには地域と職員が熱意を持って取り組
めるように進めていきたいと思います。

(委員長) 他にありませんか。なければ以上で委員会を終了したいと思います。あり
がとうございました。